

# 第2回 テーマ

土は暮らしの源

【土に還すもの】 = 【コンポストを身近に】

# True Life Market



今回は、「土」をテーマに  
開催します。

わたしたちが普段口にするお米、野菜、お肉など、食べ物の多くは「土」から生まれます。

土は、分解と再生、そして創造の力があり、多くの者が生息するために恵を分け与えてくれる大切な存在です。

今回、普段から身近にある故、触れることのない土の魅力について知り、暮らしにどれだけ欠かせないもので、循環を与えてくれるものなのか…改めて土の大切さに気付いてもらえるきっかけとなるマーケットを目指します。

その「もの」の源を知り、暮らしにどんどん知識の根を張って、あなたの暮らしがさらにあたたかなものになりますように。

出店者の皆さまは、今回も飲食店が中心で、土にまつわるクラフト作品の作家さんにもお声がけしていこうと考えています。

## ● TRUE LIFE MARKET 2023 新たなるアクション



土は暮らしの源

【土に還すもの】 = 【コンポストを身近に】

① 土から生まれたものは方法次第で、また土に還すことができます。

▶ 生ゴミをゴミにしない、資源にするコンポストの取り組みに力を入れます。

② 食事のための器も陶器や木製など、土がなくては作ることができません。

▶ 土から生まれた食器のレンタル、プラ容器を使わずに洗って返せる仕組みを強化します。

③ 衣服の天然繊維も土がなくては作れません。

▶ 天然繊維のお話。「土と人と衣服のこと」をトークライブでお伝えします。(澤山さん xtoi designs)

## ● 企画 / 発起人 加藤友美 (toi designs) の想い

### 土はどこにあるのでしょうか？

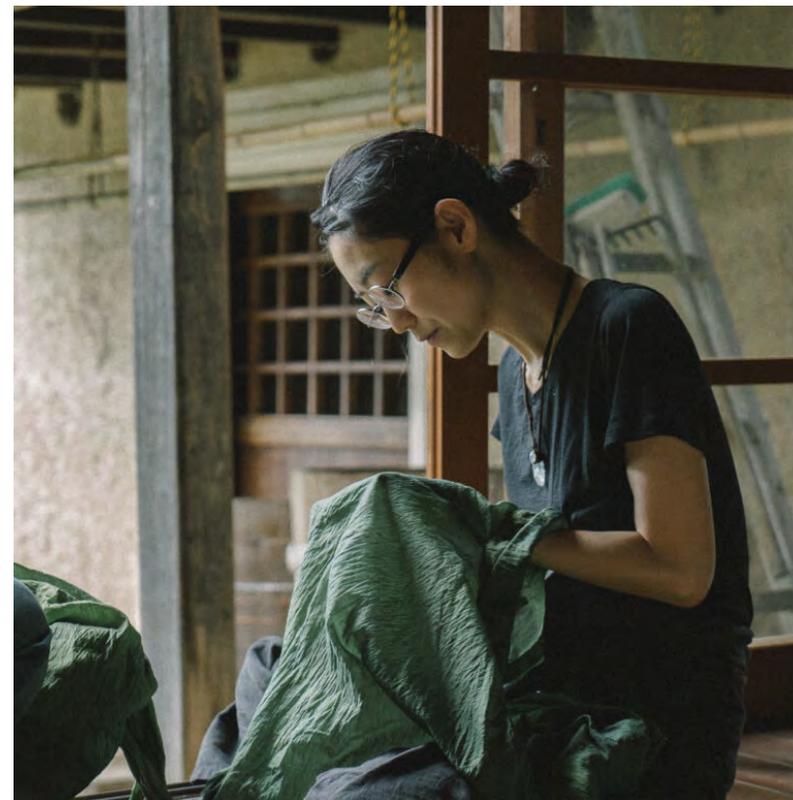
私の暮らしの中では、室内の植物の土、庭に一步踏み出せば土があります。それはただ、そこにある土だったり、作物を育てるための土、それに落ち葉が作った腐葉土もあります。

では、町の中ではどうでしょう？ 田畑、公園、学校、道端の花壇などが思い浮かびます。それらは都会に行けば行くほど暮らしから離れていき、景色の一部の土としてそこに存在しているのではないのでしょうか。

土というものはなんなのでしょうか。大地、地面…ただそこにある土は、分解と再生の力があり多くの者が生息するために私たちに恵をわけてくれる存在。母親のように命を生み出す存在。そういうものだと私は思います。

こんな話もあります。昔、耳にした話で人間にも『アース線』が必要だというお話。電化製品が漏電しないために設置するアース。もともとは接地という意味であるけれど、その意味は、自動車や大型電化製品の電路と大地をつなぐこと。交流の電気を使うことで発生する強い電圧と電磁波を抑制し、外部へ適切に逃すことによって、通信障害（故障）や感電の防止などを「アース線」で行っている状態を指す言葉です。数年前からスマートフォンやパソコンがなくてはならない存在となり、毎日何気なく私たちは弱人工電磁波を無意識のうちに浴びています。それらを溜め込むことで原因不明の不調を訴える人も多いそう。そうなる前に人も電気を土に返す作業「アース」が必要であるそう。人は裸足で土に立つことでアースをおこなうことができるそうです。裸足で芝生や土の上を歩いたり、素手で土にふれること。それらは「アースリング」とも言い、健康のために必要な要素の1つであると深く感じました。砂風呂や岩盤浴もそれに近いものがあると思います。

きっと私たちは「土」がなくては生きていけないし土さえあれば生きていける。そんなふうに思います。



toi designs(とわでざいん)

デザイナー / 衣服繕屋 tomi kato

岐阜県出身。環境ボランティア活動を通じ環境やごみ問題などに興味を持ち、ファッションのあり方を考える。石油に変わる資源でもあるヘンプ麻の可能性を知り、名古屋大須にあったヘンプ麻服の専門店「麻芽」を引継ぎ24歳で独立。イベントスペース「サイノメ」も同時運営。2015年30歳まで運営。同年、toi designsをヘルシンキでのファッションショウを機にスタートさせる。2017～2022年まで名古屋市内にて「とわでざいん商店」運営。現在は拠点をいなべ市に移し、アトリエ兼店舗を3/17オープン予定。



**TRUE LIFE MARKET 2023**  
**プログラム**

# 土 の トークライブ

## ● 第一部

登壇

認可外保育施設「いっしょに子育て親育ちなないろのわ」

代表 才賀美奈さん

×

HATAKEYA 川崎亮太さん

×

and more!!

司会進行 GCI 荒木愛美

## ● 第二部

toi deslgn(とわでざいん) デザイナー / 衣服繕屋

tomi kato 加藤友美さん

×

and more!!

司会進行 GCI 荒木愛美



# 土の遊び場

## ● 企画：いっしょに子育て親育ちなないのわ 代表 才賀美奈さん

『なないのわ』とは…いっしょに子育て！親育ち！をコンセプトに、自然の中で子どもが育ち大人も育つ、自然保育の会です。

今回は、その代表でもあり「自然と人の暮らしがつながること」をテーマに活動する市内在住の才賀美奈さんと共に、「土を使ったあそび」を企画します。

土を絵の具にしてみたりなど、どんな愉快的な遊びが生まれるでしょうか。

子どもも大人も一緒になって土を感じるこのことのできる1日にしたいなと思います。



# 土の学び場（予定）

## ● 企画：つちっこの会



平成 19 年、仲間たちと共に生ごみを堆肥化する『つちっこの会』を立ち上げた、長田正行さん。広く協力者を募り、一次発酵処理した生ごみを提供してもらい、堆肥づくりを行っています。生ごみに、落ち葉、籾殻、鶏糞、牛糞など、自然のものを混ぜ、定期的に切り返し、微生物による発酵を促します。約半年掛けて出来た堆肥は、生きた栄養源となり、畑にすき込むと驚くほどふかふかの土ができるのです。

つちっこの会では、提供してもらった生ごみの量の約半分を、堆肥としてお返しされています。そうして関わりの輪を広げ、森を育てるのと同じように地球温暖化防止と循環型社会への意識を大切に育てられています。

「人間も自然の一部。生き方の本質は自然の中にある」と長田さんは話します。

今回は、つちっこの会の堆肥を展示・販売。二次発酵以降の堆肥も展示し、触れて、見て、土の再生と創造、循環を体感してもえればと思っています。



# 土

## の色染め

暮らしの営みの色

土の美しさを知る

● 企画：染色作家 澤山桃子さん



いなべ市出身の染色作家 澤山さんは、べんがら染め（※）や草木染めなど、さまざまな自然染色を手掛けられています。土は、わずか1センチの堆積に100年以上の歳日がかかるといわれる。そんな土に触れ、還ることになった動植物、かつてその土と共に暮らしていた人々に思いを馳せ、「営みの色」を染めあげる澤山さん。

今回は、土染めの体験を通じて、その土地の営みや、土の美しさを知る、そんなきっかけをご一緒させていただきたいと思っています。

※ベンガラとは、土からとれる酸化鉄を主な成分とする赤みを帯びた茶色の顔料のこと。とくに良質な土がインドのベンガラ地方で採取されていたことから、その名がついたといわれているそうです。

※記事参照：寺町新聞 <https://teramachishinbun.com/momokosawayama/>

